

近隣市の状況

- ◎ 平成27年度の下水道統計より、荒川左岸北部流域関連市（熊谷市、行田市、桶川市、北本市）の状況を整理した。

表1 各市の管路延長

単位:m

	管路延長			
	汚水	雨水	合流	合計
鴻巣市	416,515	6,430	0	422,945
熊谷市	316,480	67,863	61,865	446,208
行田市	102,872	0	122,119	224,991
桶川市	235,010	28,962	0	263,972
北本市	168,965	7,322	0	176,287

表2 各市のポンプ場

	区分	施設名	施工年度
鴻巣市	汚水	下忍ポンプ場	1980年度(S55)
	汚水	鎌塚ポンプ場	1994年度(H6)
	雨水	大間雨水ポンプ場	2012年度(H24)
熊谷市	汚水+雨水	平戸中継ポンプ場	1968年度(S43)
	汚水	玉井中継ポンプ場	1986年度(S61)
	雨水	荒川第三雨水ポンプ場	1978年度(S53)
行田市	汚水+雨水	緑町ポンプ場	1968年度(S43)
	汚水+雨水	谷郷ポンプ場	1987年度(S62)
	汚水	東谷ポンプ場	1995年度(H7)
	汚水	棚田ポンプ場	1996年度(H8)
	汚水	城西ポンプ場	2004年度(H16)
桶川市	汚水+雨水	芝川ポンプ場	1981年度(S56)
	汚水	若宮汚水中継ポンプ場	1984年度(S59)
	汚水	朝日汚水中継ポンプ場	1987年度(S62)
	汚水	日出谷汚水中継ポンプ場	1989年度(H1)
北本市	汚水	中丸中継ポンプ場	1986年度(S61)

※都市下水路（主として市街地内の浸水被害を防止するために雨水を排除する下水道のこと）を含む場合もある。

◎ 広域化の事例

(1) 維持管理の共同化

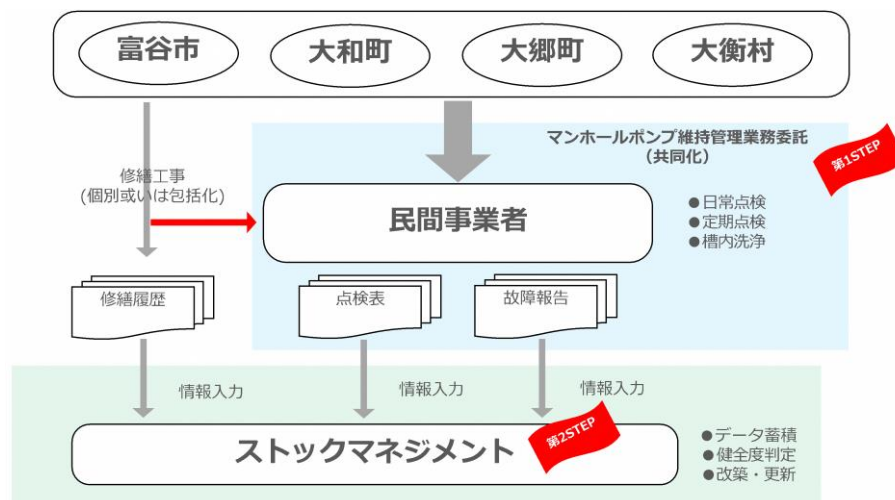
～広域連携によるマンホールポンプ等の維持管理の取り組みを推進している事例～
(宮城県及び吉田川流域4市町村)

【課題】

- ① 下水道職員数が少なく、職員1人が多くの業務を担当
- ② ベテラン職員の退職により、十分な技術継承ができない
- ③ 人口減少による収入減、維持管理費の増大

【取組概要】

- 県主導でワークショップを開催、課題共有
- マンホールポンプの維持管理委託の業務内容比較、民間業者と意見交換
- 水質検査業務についても広域化・共同化を検討
- 仕様書の共通化、共同発注準備



事業のイメージ

(出典：下水道事業における広域化・官民連携・革新的技術 (B-DASH) に関する説明会資料 国土交通省)

【連携のポイント】

- 仕様書・積算条件等の統一化を図った共同発注

【効果・メリット】

- 共同発注により4市町村の調査・点検内容等技術的情報の共有
- 4市町村分の調査・点検結果を反映したストックマネジメント計画の策定
- 発注単位が大きくなることで、緊急時対応も含ませることで、職員の負担軽減

【今後の課題】

- 各市町村の特性を踏まえた統一化が必要
- 契約窓口を持ち回りとする、担当する年に一時的に負荷が高まる

計画	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
広域連携モデル 事業勉強会	意見交換、業務分析 共同化の可能性業務の抽出等 <small>第1 第2 第3 第4 第5中間報告書</small>			
勉強会 (広域化・共同化業務 の具体化)	意見交換、各項目の具体化 共同化実施に向けた準備等			
マンホールポンプの維持管理 の広域化・共同化	仕様の共通化 検討等		共同発注の準備	共同化の開始(予定)
水質関連 の広域化・共同化	仕様の共通化 検討等		共同発注の準備	共同化の開始(予定)

ロードマップ